

生産性に関するベルギー労使代表の共同宣言

1954年5月5日

ベルギー工業連盟

商業・金融・保険連盟

ベルギー労働総同盟

ベルギー・キリスト教労働連合

18世紀の産業革命以前にあっては、王侯貴族といえども、その享受した慰楽と健康は今日の労働者に及ぶべくもなかった。少ない労力で多くの財貨を多種多様に生産することを学んできたことが今日をあらしめたのである。生産性は絶えず増大してきている。従って生産性の増大は、新しい観念ではない。それは人類が不断に指向するところである。

現在、われわれは困難な経済情勢に直面している。国民の生活水準を維持しかつ向上させるためには、より良質なものをより廉価に生産することに努めなければならない。すなわち生産性を増大しなければならないのである。

海外市場はもとより、国内市場においてさえ、外国との競争が現われている。この競争に打克つことができなければ、売上げは減退し、やがて生産は下降し、失業は増大する。

だが、生産性を増大し、製品価格を引下げ、品質を改善するならば、販売は容易になる。消費者は同じ金額でよりよい物を、より多く買う。いいかえると、消費者の生活水準は高まる。また輸出を増進することができる。企業は増産し、発展する。就業の機会はふえる。技術的ないし一般的失業は減少する。

さらに、わが国の如き古い文明国は、潤沢に生産して多くの人口の、特に後進国地域の、増大する需要に応える義務がある。このことは、文明国が平和的雰囲気維持に参画する効果的な方法でもある。

ベルギー工業連盟、商業・金融・保険連盟、ベルギー労働総同盟およびベルギー・キリスト教労働組合連合の各代表は、全国民の付託に対する責任を痛感し、生産性問題には終始かわらぬ好意ある態度をもってのぞまねばならないと信ずる旨をここに宣言する。

各代表は以下に掲げる議定書の内容について意見が一致したことを表明する。

1. 生産性の増大は究極においては失業者の減少をもたらすべきものである。労使代表は協力してあらゆる技術的失業を防ぎ、現存する失業を吸収する方策を研究し実施する。これらの努力にもかかわらず、労働者が一時的失業状態に陥ることがある場合は、労使は共同で、その対策を講ずる。

2. 労使代表は国家的問題においても、職務的問題においても、忠実に協力する。信頼ある協力は、状況に関してできる限り完全な情報を提供してはじめて成り立つものである。生産性増大のための手段および方法は、共同研究する。もっとも、生産性の問題は終局的には、企

業内において解決されるものであることを確認する。

3. 従って生産性に関する協力は、企業内においてこそ最も重要である。協力関係は、特に経営協議会で、手段および方法を示唆しあい、かつ得られた成果を記録することを通じ、確立されるものである。

4. 使用者代表は、いかなる場合においても、生産性の増大、労働者の肉体的、精神的健全性を損ない、人間的尊厳を傷つけることによって、獲得するものではないことを宣言する。労働者代表は、生産性増大に対する共同の努力を、企業の定款を変更し、また経営者の権威を脅かすための口実に用いないことを宣言する。

5. 使用者代表は、早急に経営首脳に働きかけて、生産性を最大限に向上させるよう、激励することを約束する。このため、経営首脳が、生産性向上に合致するあらゆる要素に対し組織的に、関心を払うよう仕向けるものとする。

経営首脳は、労働者が喜んで、かつ安心して、新しいやり方、方法を実行に移すのを手助けするために、組合の専門家の援助を受けることができる。

労働者代表は組合員に働きかけて組合員自身の利益のために生産性向上運動に全的に参加させるようにする。

一般的に、宣伝はあらゆる地域、あらゆる水準において行い、国民の最も広汎な層の参加を求める。

6. 双方の合意により、労働者および中堅幹部の職業訓練と、一般的教育の促進に努める。

7. 生産性増大運動は、ベルギー国の経済全般に利益することを目的とする。増大の成果は企業、労働者および消費者に公平に帰属すべきものである。

工業の生産性増大は最も重要ではあるが、それだけでは十分でない。生産性向上運動は、すべての人によってすべての分野で、特に農業部門、サービス部門、配給部門および国家行政の面で展開されなければならない。本共同宣言の範囲内でとられるべき方策は、政府側の支持をうるべきものである。政府は特に運動の調整、海外の発展および新規産業の躍進に尽力するものとする。要するに、政府の一般政策は、産業、商業、行政の各部門および一般経済における生産性と、生産の増大を促進すべきものたるべきである。わが国の経済、従ってまた、われわれの生活状態の将来は、そこにかかっている。